

高安詰所だより

第5号
立教185年
5月20日



花のおぢば

おぢばで暮らさせて頂くようになって、つくづくと感じるのは、年中絶えることのないリレー開花です。中庭の紅梅が古木の枝に可憐な花を乗せて、春の息吹を感じさせてくれると、冬の寒さを耐え抜いたビオラやパンジーが、春の訪れを告げるかのように色鮮やかに咲き始め、桜の出番を待ちます。すると真柱邸の早咲き桜に始まって、ウテナト橋から石上神宮参道にかけて染井吉野が布留川を上りきる頃、別席場前の枝垂れ桜が見頃となります。こうして絢爛な桜のオンパレードが終わり、本格的な春を迎えると、それまでひっそりと佇んでいたレンギョや小手毬が、この時とばかりに存在をアピールし、これにあわせて沿道や家々を彩るツツジが一斉に咲き始めます。詰所東境のツツジは今が盛りです。

こんな風におぢばに暮らす私達の目と心を、一年中楽しませてくれる草花達。そこには暑い日も寒い日も、心を込めて丹精し育ててくれる天理高校農事部の学生さん達に、何とか応えたいという草花達の健気な想いが込められているように思えてなりません。来月の「教祖お入り込み百四十周年」にお帰り下さる信者の皆様を、六月の花々が精一杯に心を込めて迎えてくれることでしょう。

詰所主任 芦田孝廣

詰所行事予定（六月）

- 一日 おぢば伏せ込みひのきしん
- 四日 詰所常会
- 六日 勤務者修練Ⅰ
- 八日 にをいがけ実動
- 十三日 おつとめ勉強会
- 十七日 直轄祭参拝（大教会）
- 十八日 お入り込み百四十周年
おぢば伏せ込みひのきしん
- 二十日 勤務者修練Ⅱ
- 二十三日 大教会月次祭参拝
- 二十五日 月例朝礼 お入り込み団参受入れ
- 二十六日 本部月次祭参拝者受入れ



提灯

詰所の動き（五月）

大祭などに掲げられていた名称提灯の献灯が、今年の教祖誕生祭をもつてなくなりました。長い間親しまれてきた提灯が無くなるのは寂しい限りですが、これまであまり目立たなかつたおやさとかたのイルミネーションライトが、おぢばの夕景に映えてとても美しく幻想的です。是非一度ご覧下さい。



にをいがけ実動（五月九日）

春本番。今月も勇んでにをいがけに歩かせて頂きました。この日は生憎の雨模様でしたが、雨にも負けず、風にも負けず、観光客や修学旅行で賑わいを戻し始めた奈良の東大寺参道でつとめさせて頂きました。



おつとめ勉強会（五月十三日）

詰所につとめさせて頂く者として、欠くことのできないおつとめの習熟ですので、毎月のおつとめ勉強会は真剣につとめられ、修養科生のお手本となれるよう、普段から勤務の間を縫ってお稽古に励ませて頂いております。今月の講話は、修養科男子教養掛、鈴木 眞先生がおつとめ下さいました。



徒歩団参 (五月四日)

青年会主催、恒例の徒歩団参が敢行されました。コロナ感染防止の観点から、今年も人数を制限しての実施となりましたが、お天気にも恵まれ、参加した五十二名の若者達はそれぞれの思いを胸に、初代会長様の足跡を辿り、全員元気におちばに帰ってきました。



自転車団参 (五月四日)

島渚分教会の後継者、高鹿剛幸さんら三名の若者が、「お入り込み記念期間」の団参祈願を込め、埼玉にある自教会から自転車でおちばえりされました。途中故障等のトラブルもありましたが、四日間ノンストップの強行軍にもかかわらず、三人とも元気で無事おちばに到着され、教祖お入り込み百四十周年団参の先陣を飾ってくれました。本当にお疲れ様でした

タケノコ掘り

旬の味覚タケノコ。有り難いことに毎年信者さんの伝手で、タケノコ山でのタケノコ掘りにお招き頂いています。今年は教養掛の鈴木先生も人生初のタケノコハンターに参入。軽トラ一台分(?)のタケノコを収穫させて頂きました。



修養科（第九六九期生）

修養科生活も残り僅かとなりましたが、皆さん思い残すことのないよう、ひのきしんに、そして仕上げの修練に励んでおられます。今期は男子四名、女子四名の計八名でしたが、教養掛の鈴木、山本両先生のきめ細かな指導と丹精のおかげで、一人の辞退者も出ず、家族のように和気藹々と毎日楽しく学んでおられます。

また今月十六日には女子修養科生の大西あゆみさんと富田千愛さんが、さづけの理を拝戴され念願のよふぼくとなられました。

お二人ともこれまで朝づとめ参拝時の南礼拝場でおさづけ取り次ぎでは、取り次いで頂くばかりでしたが、翌朝からは早速、取り次ぐ側となって、恩返しのお気持ちを込め真剣に取り次いでおられました。これからの活躍が楽しみです。



移動

杉本 茜さん

四月三十日をもって、難陽分教会の杉本茜さんが二年間の別館女子青年のつとめを終えて教会に戻られました。

「色々なことを学ばせて頂き、有り難く有意義な二年間でした」と感想を述べてくれた茜さんは休む間もなく、今月末からの修養科第九七二期に志願され、今度は修養科生としてのおちば生活が始まります。

編修後記

いよいよあとひと月と迫りました。長引くコロナで詰所を利用される方も少なかったこの二年余りでしたが、春の訪れとともに、全国的に新規感染者数が減少し、おちばでの行事も開催毎に信者さん方の数も確実に増えてきています。「お入り込み期間中」にお帰り下さる全ての皆様に満足頂ける詰所であることをしっかりと心に置いて、詰所スタッフ一同心を揃えお迎えさせて頂きますので、どうぞ一人でも多くの方々にお声掛け頂き、おちばにおかえり下さいますようお願い申し上げます。



illustr by YUI

発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地